

令和6年度学力向上への取組に関するアンケート結果

令和7年3月10日

保護者 様

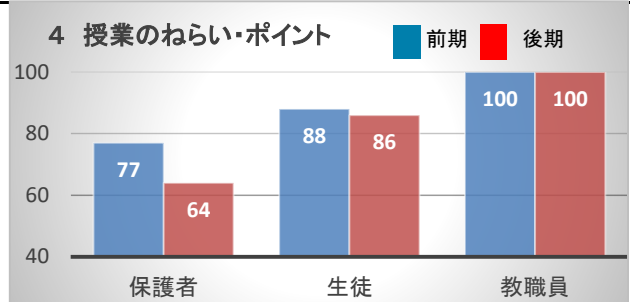
今治市立大三島中学校長 角尾 貴裕

学力向上への取組に関する評価について、下記のとおり報告します。

記

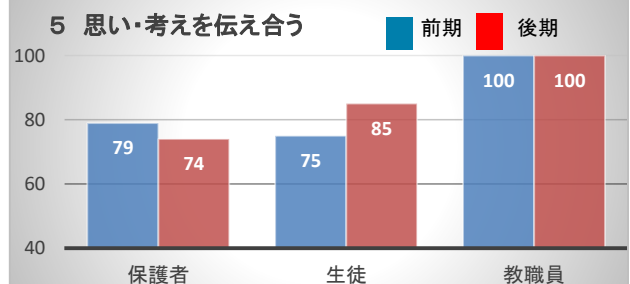
1 学習意欲・態度(の向上)について

主な取組	授業のねらいとポイントを示し、生徒が目標を持って学習に取り組めるようにすることによって、学習への意欲を高める。
考 察	生徒・教職員の評価と比較して保護者の評価が低い。基礎基本を定着させ、学力を向上させる手立てが必要である。
改善策	- 授業のねらいを明確に示し、学習に取り組ませるとともに、指導と評価の一体化を図る。 - I C Tを活用した分かる授業を積極的に展開する。また、生徒一人一人の興味・関心や学力に応じた学習を進められるように、より効果的なI C Tの活用方法も工夫したい。



2 授業改善について

主な取組	生徒の理解を助けたり、生徒が主体的に学習内容を追究し、意見を発信したりすることができるようにするためにI C Tを効果的に活用する。
考 察	生徒・教職員の評価は高い方であるが、保護者の評価は低い。学力の向上につながる豊かな言語活動の工夫が必要である。
改善策	- 小集団での学習やI C Tを活用することで、全ての生徒が発言したり、生徒同士がやりとりしたりする機会を増やしていく。 - どの教科の授業においても、I C Tが効果的に活用できるように、研修と積極的な実践に取り組む。 - 島内の小学校との授業交流や情報交換を継続して行う。



3 家庭学習の習慣化について

主な取組	各教科担任が、家庭学習の仕方について指導する。また、ドリル学習や自主学習ノートの作成を通して、生徒が自らの課題を見付けて学習に取り組もうとする態度を身に付けさせる。
考 察	生徒・教職員は前期に比べ後期の方が評価が高くなっているが、保護者は後期の方が低くなっている。自発的な家庭学習の習慣の定着が必要である。
改善策	- 家庭学習の仕方について具体的な方法を提示して、勉強の仕方が分からないという生徒が取り掛かりやすくなるように工夫する。 - 自主学習ノートの作成と活用の取組を継続して行い、計画的に家庭学習を進める習慣を身に付けさせる。

